



今村 定一

文学の町づくりについて

文学の町づくりの表明と講演会の開催を

四月改選後の文化の香り高い町づくりを託す思いで十二月に続けての質問です。

質問

川端康成の「雪国」ゆかりの町としてはこれからも永遠である事は事実である。「文化の香り高いまち」を継続するには芽を新たに育てる事も大切な町の使命と考える。町長の考えを聞きました。

①吉村・津村両氏と友好を結び、文学の町づくりの一翼を担ってもらうような考えは本当にならないのか。

町長答弁

津村氏との友好は大切にしていますが、文学の町づくりに係わって頂くかは今

現在判断できていません。

質問

②命日に向けての取組みとして、町民に存在をアピールし、津村節子氏より講演をして頂くことを提案したいと思えます。

町長答弁

提案について町としてどのように取組みが出来るか、津村氏とも相談しながら考えてみたいと思えます。

質問

③文学の町づくりの一環で、小説の応募企画などの事業を展開する考えがないか。

町長答弁

作家吉村昭氏は生涯故郷への思いを強く抱き続け故郷である荒川区日暮里では、

吉村氏より寄託された多くの資料をもとに「吉村昭記念文学館」構想もあると聞いている。荒川区でも吉村氏の墓が湯沢にある事は承知をしている。町としては荒川区の意向を尊重しながら協力関係を検討して見たいと考えています。

町民参加（協働部分）の具体的協議の場を

質問

小中一貫教育校の図式の中に町民参加の協働の場が設置されています。検討会のなかで協働の部分について、どのような協議がなされているのか。

- ①具体的に町民がどのように係わられるのか。
- ②位置付けや手法について。

教育長答弁

文教施設整備検討委員会の教育分科会の報告書に示されているように、地域との連携協働は重要な位置付けになっています。二十三年度よりこの報告書に基づいて具体的な構想を練った上で地域や各種団体の皆様と協議をする手法になるかと思えます。

協働型教育のイメージは図に示しておりますが、組織がありますので地域・家庭・学校のやるべき姿は何かを十分検討をして、まず構想をつくってから家庭や諸団体との協議を進め開校までにシステム作りをしていきたいと考えています。

一

般

質

問